

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	A-141	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Effects of family history of alcohol problems on alcohol consumption: Stronger for medically underserved men 飲酒問題に関する家族歴が飲酒（アルコール消費）に及ぼす影響：医療サービスが行き届いていない男性への影響が強い		
執筆者		
Chartier KG, Bares CB, Prom-Wormley EC, Blondino C, Miles K, Lee AG, Karriker-Jaffe KJ.		
掲載誌		
Prev Med. 2022 Aug;161:107093. doi: 10.1016/j.ypmed.2022.107093.		
キーワード		PMID
過度の飲酒、家族歴、医療が行き届いていない集団、貧困、性別		35597304
要 旨		
<p>目的：医療が行き届いていない状態（MUS）と飲酒家族歴(FH)が、飲酒ならびにアルコール障害（AUD）とどのように関連するかを検討する。</p> <p>方法：一期（2001-2002）および二期（2004-2005）の飲酒ならびに関連症状に関する米国疫学調査の匿名化された公的データから得られた 29,993 人を対象とした。一期は 50 州およびコロンビア特別区に居住する 18 歳以上の施設非入所の市民、二期は一期と同じ参加者（施設入所、死亡、現役兵などの入手不可能、拒否、所在不明は除外）とした。一日平均アルコール摂取は過去 12 か月における飲酒量と頻度と飲料ごとのエタノール含有量をもとに推定した。AUD の評価は DSM（精神障害の診断・統計マニュアル）-IV を用いた。FH は一親等および二親等は 0.5 および 0.25 でスコアを重み付けした。MUS は、連邦貧困線の 100%以下の所得または普段の健康管理手段がないと答えた MUS 群(6,323 人)と、これら基準を満たさない非 MUS 群(23,670 人)とした。FH を除くすべての独立変数は二期で測定された。従属変数は一日平均アルコール摂取と AUD とし、多変量線形回帰モデルおよびロジスティック回帰モデルで主効果と交互効果を検証した。</p> <p>結果：主効果モデルでは FH スコアと MUS 状態について、一日平均アルコール摂取との有意な関連が示され ($p < 0.01$)、MUS 群では FH の効果がより強く、女性より男性で強かった。AUD は、FH スコアと性別で有意な関連を認めたが（いずれも $p < 0.001$）、MUS 状態との関連はなかった。交互作用モデルでは、二元交互作用（FH スコア×MUS 状態、FH スコア×性別）および三元交互作用（FH スコア×MUS 状態×性別）のいずれも統計的に AUD と有意な関連を示さなかった。</p> <p>結論：MUS 状態において、FH は特に男性で過多の飲酒と関連していた。優先的な予防的介入を行うために、飲酒問題の対象者背景をさらに検証していく必要がある。</p>		